



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月9日

上場会社名 芝浦メカトロニクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6590 URL <https://www.shibaura.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今村 圭吾
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員経営管理本部長 (氏名) 池田 賢一 TEL 045-897-2425
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有（当社ウェブサイトに決算説明資料を掲載予定です。）
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト・メディア向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	29,256	33.5	4,599	149.1	4,258	143.8	3,414	354.2
2022年3月期第2四半期	21,916	△6.1	1,846	12.2	1,747	10.3	751	△34.3

（注）包括利益 2023年3月期第2四半期 3,632百万円（301.8%） 2022年3月期第2四半期 903百万円（△25.4%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	772.67	—
2022年3月期第2四半期	170.22	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	73,291	27,238	37.2	6,161.61
2022年3月期	68,854	24,614	35.7	5,571.64

（参考）自己資本 2023年3月期第2四半期 27,238百万円 2022年3月期 24,614百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	230.00	230.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	390.00	390.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	13.7	7,600	50.5	7,200	47.6	5,800	94.4	1,312.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	5,192,619株	2022年3月期	5,192,619株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	771,951株	2022年3月期	774,834株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	4,418,772株	2022年3月期2Q	4,416,401株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①業績全般について

当第2四半期連結累計期間における当社グループの事業環境は、スマートフォン、パソコン、テレビの需要減速を受け、半導体業界においてはメモリ向けを中心に一部設備投資に見直しの動きがあったものの、引き続きロジック／ファウンドリ向け、パワーデバイス向け、及びウェーハ向けなどの設備投資がいずれも堅調に推移しました。F P D (Flat Panel Display) 業界においては、テレビ向けなどの大規模な設備投資は調整局面にありましたが、モニターや車載向けなどの設備投資が継続しました。また、いずれの業界においても部品や部材の供給が不安定な状況が続きました。

このような環境の中、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は、前年同期に比べ半導体分野、F P D分野とも増加し、29,256百万円（前年同期比33.5%増）となりました。利益面では、半導体分野の売上増加と利益率の改善により営業利益が4,599百万円（前年同期比149.1%増）、経常利益が4,258百万円（前年同期比143.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が3,414百万円（前年同期比354.2%増）となりました。

なお、受注高は、半導体分野は顧客の旺盛な投資を受け好調に推移しました。一方でF P D分野は顧客の設備投資計画の見直しがあり、低調に推移しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における受注高は47,421百万円（前年同期比61.6%増）となりました。

②セグメントの業績について

主な事業セグメントの業績は次のとおりです。

(ファインメカトロニクス部門)

売上高は、半導体前工程では、ロジック／ファウンドリ向け装置、パワーデバイス向け装置、及びウェーハ洗浄向け装置が堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。一方、F P D前工程は前年同期と同等となりました。この結果、部門全体では前年同期に比べ増収となり、18,556百万円（前年同期比35.0%増）となりました。

セグメント利益は、半導体前工程での売上増加、F P D前工程でも利益率が改善したことなどから、部門全体では3,199百万円（前年同期比256.6%増）となりました。

なお、受注高は、半導体前工程は全体として順調であり、特にウェーハ洗浄向け装置が好調に推移しました。F P D前工程は、大型パネル向け装置、中小型パネル向け装置とも低水準で推移しましたが、ヘルスケア分野のインクジェット錠剤印刷装置の受注が継続しました。この結果、部門全体では前年同期に比べ受注高が増加し、35,770百万円（前年同期比91.7%増）となりました。

(メカトロニクスシステム部門)

売上高は、半導体後工程では、先端パッケージ向け装置、F O - P L P向け装置など、いずれも堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。F P D後工程では、テレビ、モニター用途の大型パネル向け装置を中心に堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。真空応用装置は、電子部品向けや半導体分野向けが堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。この結果、部門全体では前年同期に比べ増収となり、8,620百万円（前年同期比38.6%増）となりました。

セグメント利益は、売上増加により1,495百万円（前年同期比61.4%増）となりました。

なお、受注高は、半導体後工程は特に先端パッケージ向け装置が堅調に推移しました。F P D後工程はモニター用パネル向け装置、車載用パネル向け装置が堅調に推移しました。真空応用装置は、電子部品向け、半導体分野向けを中心に堅調に推移しました。この結果、部門全体では前年同期に比べ受注高が増加し、9,541百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,436百万円増加し73,291百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2,224百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が1,132百万円、仕掛品が893百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,812百万円増加し46,052百万円となりました。これは主に、未払費用が739百万円、前受金が2,780百万円増加した一方で短期借入金が500百万円、1年内返済予定の長期借入金が800百万円減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,624百万円増加し27,238百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益3,414百万円の計上により利益剰余金が増加したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ2,224百万円増加し、28,526百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は5,173百万円（前年同期は3,365百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上及び前受金の増加により資金が増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は792百万円（前年同期は283百万円の減少）となりました。これは主に、固定資産の取得により資金が減少したことによるものです。

なお、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは、4,381百万円の増加（前年同期は3,081百万円の増加）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は2,327百万円（前年同期は1,195百万円の減少）となりました。これは主に、借入金の返済及び配当金の支払いにより資金が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想の修正につきましては、本日（2022年11月9日）公表しました「2023年3月期 通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,316	28,541
受取手形、売掛金及び契約資産	24,935	26,067
電子記録債権	717	753
商品及び製品	1,427	1,659
仕掛品	1,981	2,874
原材料及び貯蔵品	163	207
未収入金	1,845	1,285
その他	335	420
貸倒引当金	△1,521	△1,396
流動資産合計	56,201	60,413
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	28,180	28,495
減価償却累計額	△20,129	△20,294
建物及び構築物(純額)	8,051	8,200
機械装置及び運搬具	6,447	6,561
減価償却累計額	△4,978	△5,256
機械装置及び運搬具(純額)	1,469	1,304
工具、器具及び備品	1,192	1,219
減価償却累計額	△1,000	△1,033
工具、器具及び備品(純額)	191	185
土地	119	119
リース資産	97	93
減価償却累計額	△51	△55
リース資産(純額)	46	37
建設仮勘定	957	1,214
有形固定資産合計	10,835	11,064
無形固定資産		
特許権	369	382
その他	231	231
無形固定資産合計	600	613
投資その他の資産		
投資有価証券	52	52
長期前払費用	14	13
繰延税金資産	934	925
その他	219	211
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	1,216	1,199
固定資産合計	12,652	12,877
資産合計	68,854	73,291

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,240	11,295
電子記録債務	3,020	3,305
短期借入金	4,350	3,850
1年内返済予定の長期借入金	800	—
リース債務	17	16
未払法人税等	1,249	1,092
未払費用	3,087	3,827
前受金	3,852	6,632
役員賞与引当金	62	38
受注損失引当金	8	17
製品保証引当金	120	128
その他	1,297	825
流動負債合計	29,106	31,029
固定負債		
長期借入金	5,000	5,000
リース債務	34	25
退職給付に係る負債	6,620	6,516
役員退職慰労引当金	24	26
修繕引当金	309	308
資産除去債務	67	67
長期預り保証金	3,078	3,078
固定負債合計	15,133	15,023
負債合計	44,240	46,052
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,761	6,761
資本剰余金	9,037	9,037
利益剰余金	12,695	15,092
自己株式	△4,007	△3,997
株主資本合計	24,487	26,893
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	423	585
退職給付に係る調整累計額	△297	△240
その他の包括利益累計額合計	126	344
純資産合計	24,614	27,238
負債純資産合計	68,854	73,291

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	21,916	29,256
売上原価	14,497	18,505
売上総利益	7,419	10,750
販売費及び一般管理費	5,572	6,151
営業利益	1,846	4,599
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	0	0
投資有価証券売却益	17	—
為替差益	25	486
その他	21	32
営業外収益合計	66	521
営業外費用		
支払利息	47	41
デリバティブ評価損	37	723
その他	81	96
営業外費用合計	165	861
経常利益	1,747	4,258
特別損失		
事業構造改善費用	613	—
特別損失合計	613	—
税金等調整前四半期純利益	1,133	4,258
法人税、住民税及び事業税	485	834
法人税等調整額	△103	9
法人税等合計	382	844
四半期純利益	751	3,414
親会社株主に帰属する四半期純利益	751	3,414

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	751	3,414
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14	—
為替換算調整勘定	90	161
退職給付に係る調整額	76	56
その他の包括利益合計	152	218
四半期包括利益	903	3,632
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	903	3,632

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,133	4,258
減価償却費	858	849
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	163	△127
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△4	△46
受取利息及び受取配当金	△1	△1
支払利息	47	41
投資有価証券売却損益 (△は益)	△17	—
為替差損益 (△は益)	2	25
前受金の増減額 (△は減少)	1,006	2,761
売上債権の増減額 (△は増加)	498	△1,103
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△789	△1,654
仕入債務の増減額 (△は減少)	△264	894
未収入金の増減額 (△は増加)	808	560
事業構造改善費用	613	—
その他	△227	△145
小計	3,826	6,312
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△46	△43
法人税等の支払額	△415	△1,097
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,365	5,173
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△256	△699
投資有価証券の売却による収入	39	—
その他	△67	△92
投資活動によるキャッシュ・フロー	△283	△792
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△700	△500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△8	△8
長期借入金の返済による支出	—	△800
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△486	△1,017
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,195	△2,327
現金及び現金同等物に係る換算差額	95	170
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,981	2,224
現金及び現金同等物の期首残高	19,586	26,301
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,567	28,526

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	ファインメカ トロニクス	メカトロニク スシステム	流通機器 システム	不動産賃貸	
売上高					
外部顧客への売上高	13,749	6,220	1,004	942	21,916
セグメント間の内部売上高又は振替高	17	95	—	45	159
計	13,766	6,316	1,004	988	22,075
セグメント利益	897	926	12	271	2,108

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,108
全社費用(注)	△262
その他	△98
四半期連結損益計算書の経常利益	1,747

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の研究開発費のうち全社共通に係る要素開発費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファインメカトロニクス」セグメントにおいて、横浜事業所内の老朽化した建物の取り壊しに伴う減損損失について特別損失(事業構造改善費用)に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、前第2四半期連結累計期間においては214百万円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	ファインメカ トロニクス	メカトロニク スシステム	流通機器 システム	不動産賃貸	
売上高					
外部顧客への売上高	18,556	8,620	1,147	931	29,256
セグメント間の内部売上高又は振替高	25	121	0	45	192
計	18,582	8,742	1,147	977	29,449
セグメント利益	3,199	1,495	35	245	4,975

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,975
全社費用(注)	△396
その他	△320
四半期連結損益計算書の経常利益	4,258

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の研究開発費のうち全社共通に係る要素開発費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。